

平成30年度くまもと県民カレッジ主催講座（前期）

日時 平成30年7月4日 午後2時～

場所 くまもと県民交流館バレー会議室1

熊本学1コース 第4回

熊本の歴史彩発見⑨

～人物が語る「くまもとのあゆみ」～

鹿子木量平（熊本市）

～藩財政救済に貢献した干拓の祖～

熊本県文化財保護審議会 委員 前川 清一 氏

かなこぎりようへいつなよし

鹿子木量平維善

1753年（宝暦3年）生
1841年（天保12年）89歳没

飽田郡五町手永鹿子木村庄屋の家に
生まれ、1773年（安永2年）父
のあとを継ぎ鹿子木村庄屋になる

熊本藩の地方支配

手永制とは

細川氏特有の行政区画（郡と
村の中間）を手永とした制度

惣庄屋とは

郡奉行の助役として任命された
惣庄屋の下に複数の庄屋を配し
村を統治させた

惣庄屋が手永のすべての管理
を行い、利益が出たら手永会所
で蓄え、干拓や橋をかけた



熊本市北区北迫

寂心さんの樟



樹齢約800年
県指定天然記念物

鹿子木家の
先祖は、
隈本城の城主

俗名は鹿子木親貞

鹿子木量平はこんな人だった

- ①「天に奉ずる道」を邁進
新地造成によるコメの増産
で村落再建
出百姓で新村を形成

国を富まし
民を豊かにした

- ②加藤清正公を神とあがめ帰依
開拓・土木の先駆者として

浄池廟 功績顕彰碑建立
貝洲加藤神社勧請

- ③神となる 明治43年

量平・息子謙之助没後
文政神社の祭神となる



天明の大飢饉 1783年（天明3年）

鹿子木村・西梶尾村（現在熊本市北区）

村民を飢えや寒さから救う

寛政の大津波 1792年（寛政4年）

（雲仙岳噴火）民衆の救済

語り継がれている「島原大變、肥後迷惑」 あの時のことです

765名の犠牲者の墓碑を建立し追善供養をした

（連光寺の僧と共に、一人一人に法名を授けた）

津波教訓碑を建立し、毎年4月朔日に「津波忌」

として避難の手はずを後世に伝えるようにした

河内町船津

（現在熊本市西区）

庄屋 ↑

↓惣庄屋

鹿子木量平の主な業績

下益城郡杉島手永の惣庄屋兼代官として

国町板堰の設置 1801年（享和2年）

国町・菰江、両莎崎、砥江の五箇村
米の増産



大鞘樋門

四百町新地の時に、通潤橋
霊台橋で有名な石工岩永三
五郎により作られた潮留。
現在は、この数年の自然災
害で痛々しいシート姿に

文政神社



親子三代の墓碑が
三つの新地接点に
建立されている

「お国一の貧地」と言われていた（現八代市）

野津手永惣庄屋兼代官として

藩や豪商と交渉し、手永の立直しに手を尽くす

干拓 百町新地 1804年（文化元年）

四百町新地 1819年（文政2年）

七百町新地 1821年（文政4年）

七百町の新地は東京ドーム136個分です

エピソードも色々

五難の障り

「清正公のたたりだ」
説もあり

藩命で七百町干拓を任命された鹿子木親子
だが、妬む人もおり藩内で反対する人も多
く、天草から運ぶ予定の石が止められたり、
自然災害が続き工事が遅れたり、清正公
の廟に干拓成就
を願った



貝洲加藤神社

量平が四百町新地
成就後勧請した神社

くまもと県民カレッジ
広報ボランティアC・M作成